

I 期（一般）

受験 番号				氏 名	

令和 8 年度

武蔵野大学 専攻科 言語聴覚士養成課程 入学試験問題（9 月 21 日）

〔 小論文 〕

2023 年 4 月 28 日の産経新聞 Web に、下記の記事が掲載されました。これを題材に「対人支援職である言語聴覚士の役割」について、あなたの考えを 1000 文字以内で論じなさい。

◇「吃音」の若者が接客 「注文に時間がかかるカフェ」が導く第一歩

言葉がスムーズに出ない吃音（きつおん）の若者が接客の仕事を体験するイベントが各地で開かれている。その名も「注文に時間がかかるカフェ」。客として訪れる人の中には当事者やその家族もあり、スタッフが言葉に詰まっても、せかしたり「どうしたの」と尋ねたりしない。接客の仕事に挑戦した学生たちは「最後まで話を聞いてくれるので、気負わずに接客できた」と話し、新たな一歩を踏み出すきっかけになっている。

「気負わずにできた」と参加した学生

2 月下旬の日曜日の午後。大阪市北区のビルのフロアで、1 日限定の「注文に時間がかかるカフェ」が開かれた。受け付けでは、スタッフが訪れた人に「吃音は話し言葉が滑らかに出不い発話障害。さえずったり、代わりに言ったりせずに言い終わるまで待ってください」と注意事項を説明。その後、椅子やテーブルが並ぶスペースに案内し、飲み物を運んだ。

スタッフを務めたのは 10～20 代の男女計 4 人。客に吃音に関するクイズを出したり、タブレット端末を使ってやり取りしたりし、会話を楽しんだ。スタッフが時折言葉に詰まっても、客は落ち着いた様子で話し始めるのを待っていた。

大学生の新森未夢さん（20）＝京都市南区＝は「うなずいて最後まで話を聞いてもらえたので、緊張がほぐれた。気負わずにできた」と声を弾ませた。最初の言葉が出にくく、教科書を音読した際にからかわれるなど嫌な思いをした経験もある。アルバイト先では洗い場を担当するが、人と話すのが好きで「人と接する仕事にあこがれていた」と参加した。

（産経新聞 Web2023 年 4 月 28 日、

<https://www.sankei.com/article/20230428-XMJP225BG5IERJYZ2XFZ2M4ZME/>より抜粋）